



正の実数  $a, b, p$  に対して

$$A = (a+b)^p \text{ と } B = 2^{p-1}(a^p + b^p)$$

の大小関係を調べよ。



$$\frac{A}{a^p} = \frac{(a+b)^p}{a^p} = \left(1 + \frac{b}{a}\right)^p, \quad \frac{B}{a^p} = 2^{p-1} \left\{1 + \left(\frac{b}{a}\right)^p\right\} \text{ であり}$$

$$\frac{b}{a} = x \text{ とおくと } \frac{A}{a^p} = (1+x)^p, \quad \frac{B}{a^p} = 2^{p-1}(1+x^p) \text{ となる。}$$

$a^p$  は正の実数であるから  $A, B$  の大小関係を調べる代わりに,  $\frac{A}{a^p}, \frac{B}{a^p}$  の大小関係を調べても

結果は同じである。

$p=1$  のときは  $A=B$  である。

$p \neq 1$  のとき

$$f(x) = (1+x)^p - 2^{p-1}(1+x^p) \text{ とおく。}$$

$$f'(x) = p(1+x)^{p-1} - 2^{p-1}px^{p-1} = p\left\{(1+x)^{p-1} - (2x)^{p-1}\right\} \text{ となる。}$$

( )  $p > 1$  のとき  $f'(x) = 0$  となるのは  $x=1$  のときで,  $f(1) = 0, p-1 > 0$  から

$f(x)$  の増減は次の通り。

$x$	0	...	1	...
$f'(x)$		+	0	-
$f(x)$		↗	0	↘

よって  $f(x) \geq 0$  であるから  $\frac{A}{a^p} \geq \frac{B}{a^p}$  (等号成立は  $x=1$  のとき)

( )  $0 < p < 1$  のとき  $f(1) = 0, p-1 < 0$  から

$f(x)$  の増減は次の通り。

$x$	0	...	1	...
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$		↘	0	↗

よって  $f(x) \geq 0$  であるから  $\frac{A}{a^p} \geq \frac{B}{a^p}$  (等号成立は  $x=1$  のとき)

したがって  $p=1$  のとき  $A=B$

$p > 1$  のとき  $A \geq B$  (等号成立は  $a=b$  のとき)

$0 < p < 1$  のとき  $A \leq B$  (等号成立は  $a=b$  のとき)



斜辺の長さが 1 である正  $n$  角錐を考える。つまり、底面を正  $n$  角形  $A_1A_2\cdots A_n$ 、頂点を  $O$  と表せば  $OA_1 = OA_2 = \cdots = OA_n = 1$  である。そのような正  $n$  角錐のなかで最大の体積をもつものを  $C_n$  とする。

- (1)  $C_n$  の体積  $V_n$  を求めよ。
- (2)  $\lim_{n \rightarrow \infty} V_n$  を求めよ。



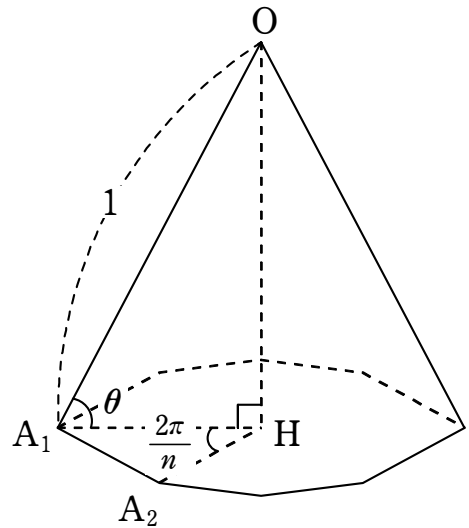
(1)  $O$  から底面の正  $n$  角形に下ろした垂線の足を  $H$  とし、 $\angle OA_1H = \theta$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) とする。

このとき、 $HA_1 = \cos \theta$ 、 $\angle A_1HA_2 = \frac{2\pi}{n}$  であり、

$$\begin{aligned} (\text{正 } n \text{ 角形の面積}) &= n \times \text{HA}_1A_2 \\ &= n \times \frac{1}{2} \cos^2 \theta \cdot \sin \frac{2\pi}{n} \end{aligned}$$

$OH = \sin \theta = h$  とおくと

$$\begin{aligned} (\text{正 } n \text{ 角形の体積}) &= \frac{1}{3} \left( \frac{n}{2} \cos^2 \theta \cdot \sin \frac{2\pi}{n} \right) \sin \theta \\ &= \frac{n}{6} \sin \frac{2\pi}{n} (h - h^3) \text{ となる。} \end{aligned}$$



$f(h) = h - h^3$  とおくと  
 $f'(h) = 1 - 3h^2$  より  
 $f(h)$  の増減は右表の通り。

$h$	0	...	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	...	1
$f'(h)$		+	0	-	
$f(h)$		↗	極大	↘	

よって  $h = \frac{1}{\sqrt{3}}$  のときに最大となり、

最大値  $f\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2}{3\sqrt{3}}$  をとる。

$$\text{よって } V_n = \frac{n}{6} \sin \frac{2\pi}{n} \cdot \frac{2}{3\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{3}n}{27} \sin \frac{2\pi}{n}$$

したがって  $\lim_{n \rightarrow \infty} V_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left( \frac{\sqrt{3}n}{27} \sin \frac{2\pi}{n} \right)$

$$= \lim_{n \rightarrow \infty} \left( \frac{\sin \frac{2\pi}{n}}{\frac{2\pi}{n}} \cdot \frac{1}{\frac{n}{2\pi}} \cdot \frac{\sqrt{3}n}{27} \right)$$

$$= \lim_{n \rightarrow \infty} \left( \frac{\sin \frac{2\pi}{n}}{\frac{2\pi}{n}} \cdot 2\pi \cdot \frac{\sqrt{3}}{27} \right)$$

$$= \frac{2\sqrt{3}}{27} \pi \text{ となる。}$$



3 辺の長さが  $1, 1, a$  である三角形の面積を, 周上の 2 点を結ぶ線分で 2 等分する。

それらの線分の長さの最小値を  $a$  を用いて表せ。



三角形の頂点を  $A, B, C$  とし,  $AB = AC = 1, BC = a$  としても一般性を失わない。

三角形の成立条件から  $\begin{cases} 1+1 > a \\ 1+a > 1 \end{cases}$  より  $0 < a < 2$  となる。以下, この条件の下で考える。

三角形の周上の 2 点結ぶ線分の両端を  $P, Q$  とする。

( )  $P, Q$  がともに等边上にあるとき

$AP = x, AQ = y$  とすると

$$APQ = \frac{1}{2} \quad ABC \text{ より}$$

$$\frac{1}{2} AP \cdot AQ \sin A = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} AB \cdot AC \sin A \quad \text{から} \quad xy = \frac{1}{2} \quad \dots$$

$$\text{このとき} \quad \cos A = \frac{1^2 + 1^2 - a^2}{2 \cdot 1 \cdot 1} = \frac{2 - a^2}{2} \quad \text{なので}$$

$$PQ^2 = x^2 + y^2 - 2xy \cos A$$

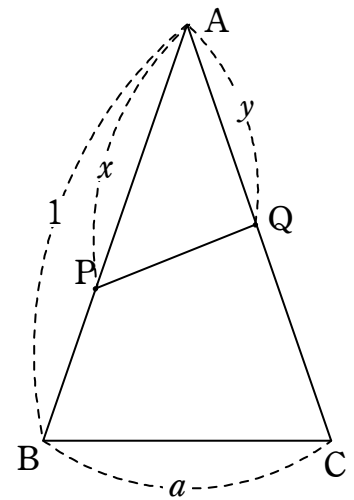
$$= x^2 + y^2 - 2 \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{2 - a^2}{2}$$

$$2xy - \frac{2 - a^2}{2}$$

$$= 2xy - 1 + \frac{a^2}{2}$$

$$= 2 \cdot \frac{1}{2} - 1 + \frac{a^2}{2}$$

$$= \frac{a^2}{2} \quad (\text{等号成立は } x = y = \frac{1}{\sqrt{2}} \text{ のとき)}$$

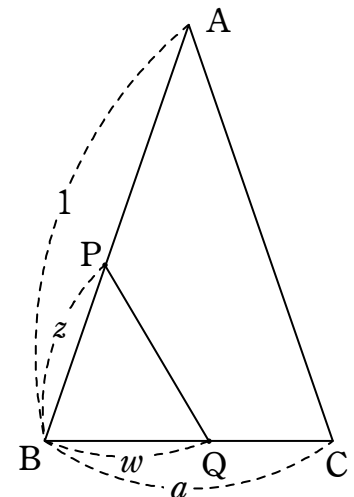


( )  $P$  が等边上,  $Q$  が底边上にあるとき

$BP = z, BQ = w$  とすると

$$BPQ = \frac{1}{2} \quad BCA \text{ より}$$

$$\frac{1}{2} BP \cdot BQ \sin B = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} BA \cdot BC \sin B \quad \text{から} \quad zw = \frac{a}{2} \quad \dots$$



このとき  $\cos B = \frac{a}{2}$  なので

$$PQ^2 = z^2 + w^2 - 2zw \cos B$$

$$= z^2 + w^2 - 2 \cdot \frac{a}{2} \cdot \frac{a}{2}$$

$$2zw - \frac{a^2}{2}$$

$$= 2 \cdot \frac{a}{2} - \frac{a^2}{2}$$

$$= a - \frac{a^2}{2} \quad (\text{等号成立は } z = w = \frac{a}{\sqrt{2}} \text{ のとき})$$

$0 < a < 2$  において  $\frac{a^2}{2}$  と  $a - \frac{a^2}{2}$  の大小関係を考える。

$$\frac{a^2}{2} - \left( a - \frac{a^2}{2} \right) = a(a-1) \text{ より}$$

$$0 < a < 1 \text{ のとき } \frac{a^2}{2} < a - \frac{a^2}{2}$$

$$1 < a < 2 \text{ のとき } \frac{a^2}{2} > a - \frac{a^2}{2} \text{ である。}$$

したがって PQ の最小値は

$$0 < a < 1 \text{ のとき } \frac{a}{\sqrt{2}}$$

$$1 < a < 2 \text{ のとき } \sqrt{a - \frac{a^2}{2}}$$



2 以上の自然数  $n$  に対して  $\int_0^1 t^{2n-1} e^t dt + \left( \sum_{k=1}^{n-1} \frac{{}^{2n-1}P_{2n-2k}}{2k+1} \right) e = (2n-1)!$  を示せ。ここで  $e$  は自然対数の底である。



数学的帰納法により示す。

$$\int_0^1 t^{2n-1} e^t dt + \left( \sum_{k=1}^{n-1} \frac{{}^{2n-1}P_{2n-2k}}{2k+1} \right) e = (2n-1)! \dots (*)$$

( )  $n=2$  のとき

$$\begin{aligned} ((*) \text{ の左辺}) &= \int_0^1 t^3 e^t dt + \frac{{}^3P_2}{3} e \\ &= \left[ e^t (t^3 - 3t^2 + 6t - 6) \right]_0^1 + 2e \\ &= -2e + 6 + 2e \\ &= 6 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} ((*) \text{ の右辺}) &= (2 \cdot 2 - 1)! \\ &= 3! \\ &= 6 \end{aligned}$$

よって成り立つ。

$$( ) \quad n=m \text{ のとき } (*) \text{ が成り立つとすると } \int_0^1 t^{2m-1} e^t dt + \left( \sum_{k=1}^{m-1} \frac{{}^{2m-1}P_{2m-2k}}{2k+1} \right) e = (2m-1)! \dots$$

$$\begin{aligned} \text{このとき } \int_0^1 t^{2(m+1)-1} e^t dt &= \int_0^1 t^{2m+1} e^t dt \\ &= \left[ t^{2m+1} e^t \right]_0^1 - \int_0^1 (2m+1) t^{2m} e^t dt \\ &= e - (2m+1) \int_0^1 t^{2m} e^t dt \\ &= e - (2m+1) \left\{ \left[ t^{2m} e^t \right]_0^1 - \int_0^1 2m t^{2m-1} e^t dt \right\} \\ &= -2me + (2m+1) 2m \int_0^1 t^{2m-1} e^t dt \end{aligned}$$

また,  ${}_n P_r = n(n-1) \dots {}_{n-2} P_{r-2}$  より

$$\begin{aligned}
\left( \sum_{k=1}^m \frac{2^{(m+1)-1} P_{2(m+1)-2k}}{2k+1} \right) e &= \left( \frac{2^{m+1} P_{2m}}{3} + \frac{2^{m+1} P_{2m-2}}{5} + \dots + \frac{2^{m+1} P_4}{2m-1} + \frac{2^{m+1} P_2}{2m+1} \right) e \\
&= (2m+1)2m \left( \frac{2^{m-1} P_{2m-2}}{3} + \frac{2^{m-1} P_{2m-4}}{5} + \dots + \frac{2^{m-1} P_2}{2m-1} + \frac{1}{2m+1} \right) e \\
&= (2m+1)2m \left( \frac{2^{m-1} P_{2m-2}}{3} + \frac{2^{m-1} P_{2m-4}}{5} + \dots + \frac{2^{m-1} P_2}{2m-1} \right) e + 2me \\
&= (2m+1)2m \left( \sum_{k=1}^{m-1} \frac{2^{m-1} P_{2m-k}}{2k+1} \right) e + 2me
\end{aligned}$$

したがって、より

$$\begin{aligned}
&\int_0^1 t^{2(m+1)-1} e^t dt + \left( \sum_{k=1}^m \frac{2^{(m+1)-1} P_{2(m+1)-2k}}{2k+1} \right) e \\
&= -2me + (2m+1)2m \int_0^1 t^{2m-1} e^t dt + (2m+1)2m \left( \sum_{k=1}^{m-1} \frac{2^{m-1} P_{2m-k}}{2k+1} \right) e + 2me \\
&= (2m+1)(2m) \left\{ \int_0^1 t^{2m-1} e^t dt + \left( \sum_{k=1}^{m-1} \frac{2^{m-1} P_{2m-k}}{2k+1} \right) e \right\} \\
&= (2m+1)(2m) \times (2m-1)! \\
&= (2m+1)! \text{ となり, } k=m+1 \text{ のときも成り立つ。}
\end{aligned}$$

( ) ( ) から数学的帰納法により題意は示された。





複素平面上の点列  $A_n$  ( $n \geq 0$ ) が複素数列  $a_n + ib_n$  ( $a_n, b_n$  は実数,  $i$  は虚数単位) を表すとする。

極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = a_\infty, \lim_{n \rightarrow \infty} b_n = b_\infty$  がともに存在するとき, 複素数  $a_\infty + ib_\infty$  を表す点  $A_\infty$  を  $A_n$  の極限点ということにする。このとき次の問いに答えよ。

(1) 複素平面上の点列  $P_n$  ( $n \geq 0$ ) を次のように定める。

$P_0$  は 0 を表す点とし,  $P_1$  は  $1+i$  を表す点とする。

以下  $n \geq 2$  に対しては, ベクトル  $\overline{P_{n-2}P_{n-1}}$  を反時計まわりに  $\frac{\pi}{3}$  回転し, 長さを  $\frac{2}{3}$  倍したベクトルが  $\overline{P_{n-1}P_n}$  となるように  $P_n$  を定める。 $P_n$  の極限点  $P_\infty$  が表す複素数を求めよ。

(2) 点列  $Q_n$  ( $n \geq 0$ ) は次のように定める。

$Q_0$  は 0 を表す点とし,  $Q_1$  は  $z = x + iy$  を表す点とする。

以下  $n \geq 2$  に対しては, ベクトル  $\overline{Q_{n-2}Q_{n-1}}$  を反時計まわりに  $\frac{\pi}{6}$  回転し, 長さを  $\frac{1}{2}$  倍したベクトルが  $\overline{Q_{n-1}Q_n}$  となるように  $Q_n$  を定める。 $Q_n$  の極限点  $Q_\infty$  と(1)の  $P_\infty$  が一致するとき  $z$  を求めよ。



(1) 点  $P_n$  を表す複素数を  $z_n$  ( $n \geq 0$ ) とし,  $\alpha = \frac{2}{3} \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right) = \frac{1 + \sqrt{3}i}{3}$  とおく。

このとき,  $z_n - z_{n-1} = \alpha(z_{n-1} - z_{n-2})$  ( $n \geq 2$ ) であり,  $z_0 = 0$  であるから

$$z_n - z_{n-1} = \alpha^{n-1}(z_1 - z_0) = \alpha^{n-1}z_1$$

$$\text{よって } z_n = \sum_{k=1}^n \alpha^{k-1}z_1 = \frac{1 - \alpha^n}{1 - \alpha} z_1$$

$|\alpha| < 1$  より  $\lim_{n \rightarrow \infty} \alpha^n = 0$  であることと  $z_1 = 1+i$  から  $P_\infty$  を表す複素数は

$$\lim_{n \rightarrow \infty} z_n = \frac{1}{1 - \alpha} z_1 = \frac{1}{1 - \frac{1 + \sqrt{3}i}{3}} (1+i) = \frac{3+3i}{2 - \sqrt{3}i} = \frac{3\{(2 - \sqrt{3}) + (2 + \sqrt{3})i\}}{7}$$

(2)  $\beta = \frac{1}{2} \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) = \frac{\sqrt{3}+i}{4}$  とおき, 点  $Q_\infty$  を表す複素数を  $w_\infty$  とすると

$$(1) \text{と同様にして } \lim_{n \rightarrow \infty} w_\infty = \frac{w_1}{1-\beta} = \frac{z}{1-\beta}$$

$Q_\infty$  と  $P_\infty$  が一致するとき,  $\frac{z}{1-\beta} = \frac{3\{(2-\sqrt{3})+(2+\sqrt{3})i\}}{7}$  となるから

$$\begin{aligned} z &= \frac{3\{(2-\sqrt{3})+(2+\sqrt{3})i\}}{7} (1-\beta) \\ &= \frac{3\{(2-\sqrt{3})+(2+\sqrt{3})i\}}{7} \left( 1 - \frac{\sqrt{3}+i}{4} \right) \\ &= \frac{3\{(2-\sqrt{3})+(2+\sqrt{3})i\}}{28} (4-\sqrt{3}-i) \\ &= \frac{3\{(13-5\sqrt{3})+3(1+\sqrt{3})i\}}{28} \end{aligned}$$